

# 自己免疫疾患の予後診断法の開発

企 業 / サラヤ（株）

研究者 / 岩谷良則

（大阪大学医学部保健学科検査技術科学専攻病態生体情報学講座教授）

自己免疫疾患には、膠原病などの難治性の疾患が多い。近年の特異的自己抗体測定法の開発により、発病前の初期の自己免疫疾患も診断可能になった。しかし病態の進行は患者毎に様々で、自己抗体が陽性でも将来治療を必要とするようになるのは、その中のごく一部である。しかし誰が発症するか不明なため、全員の経過観察を要する。そこで今後望まれる自己免疫疾患の予後診断法の開発というコンセプトを、免疫システムにおける調節機構および自己免疫疾患の増悪機序に関して得られているデータに基づき、免疫関連細胞 / 分子 / 遺伝子の測定法を確立し、発症・増悪モデルで予後規定因子を検証する。

橋本病が将来増悪（発症）することの予測法として、末梢血 CD 8 陽性細胞中の CD25 陽性細胞割合と、甲状腺サイログロブリン抗体価の組み合わせが特異性が高く、有用な予後診断法の開発に成功した。またこの結果および検討結果をマニュアル化し、HTML 化して CD-ROM で供給した。あわせて、予測に用いることができる、ゲノム塩基配列の候補を見出すことができた。